

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域との交流や地域への貢献を目的とした活動や行事等に生徒の80%以上が満足している。	活動の目的を明確に理解させ、生徒が主体的な参加ができるよう指導する。また、生徒の興味・関心を高められるよう工夫し、活動の充実を図る。 農業クラブ活動や各種コンテストの意義を理解させ、専門部の活性化につながるよう、継続的な指導を実施する。	A	A	今後も活動の目的を理解させ、生徒が主体的に活動に取り組めるよう、事前・事後指導を充実させる。	A	A	今後も活動の主旨や目的を意識した指導を進めるとともに、活動内容の工夫や精選を図り、よりよい活動を行う。
		②県農業クラブ連盟各種発表会・各種競技大会や各種のコンクールなどで4種目以上入賞する。		A	—	今後も継続的な指導を行い、専門部活動を充実させるとともに専門知識・技術の向上に努める。	A	—	継続的に活動を実践するとともに、研究活動の大切さを意識させた指導に取り組む。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①「授業が分かりやすい」と70%の生徒が答えている。	生徒の実態にあった教材の選定、授業展開を実践するとともに学習の成果を実感できる機会を設ける。 「自分の生き方と将来の職業」を考えるうえで、資格を取得することがより具体的なビジョンの創造に繋がると理解させ、積極的に資格取得や検定にチャレンジする態度を育てる。	A	A	更に分かりやすい充実した授業が展開できるように授業中の生徒指導を強化し、学習環境の改善を図る。 各教科やコースでの学習や進路実現に向けた取り組みとして資格を取得することがより効果的であることを周知するとともに、保護者に対して本校の教育活動で取得可能な資格や検定について情報を発信する。	A	A	継続的に授業改善を図るとともに落ち着いた雰囲気での授業が実践できるよう生徒指導に取り組む。 資格取得が進路実現や自分の生き方を左右する重要な要素であることを生徒及び保護者に伝えるとともに自分の生き方を具体的にイメージさせ、意欲的に資格取得にチャレンジする雰囲気作りに努める。
		②各種資格・検定を受検した生徒が80%以上である。		—	B	基礎学力の向上と定着に向け、学校と家庭が連携し、より効果的な学習となるよう学習形態や指導体制を検討する。	—	C	生徒がより基礎学力が向上していると実感できる効果的な「朝学習の時間」となるよう教材の選定や指導体制を工夫する。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①「朝学習の時間」等により基礎学力が向上したと実感する生徒が70%以上である。	「朝学習の時間」の目的を明確にし、学び直しや基礎学力の定着が進路実現に重要であることを認識させる。 協働学習をとおして、学びを実感するとともに学習成果により自己有用感を高めることができる授業を実践する。	A	A	基礎学力の向上と定着に向け、学校と家庭が連携し、より効果的な学習となるよう学習形態や指導体制を検討する。	A	A	生徒がより基礎学力が向上していると実感できる効果的な「朝学習の時間」となるよう教材の選定や指導体制を工夫する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上実施している。	職員会議・学年会議の議題として情報交換を実施し、情報を共有して組織的な指導につなげる。担任や教科担当などと連絡・報告・相談を常に意識して情報交換を行い、きめ細やかな生徒の状況把握に努める。 「教育相談だより」の内容を発行回数改善し、生徒及び保護者にとって開かれた環境をつくる。教育相談の取り組みやスクールカウンセラーの周知のために、生徒・保護者に連絡メールを活用する。	A	—	各クラスの情報交換を職員会議で行っている。また、学年や各コース、各部等できめ細かな情報を共有できる体制を構築していく。主事・主任が積極的に情報収集を実践して、細かな生徒の状況把握に努める。	A	—	職員会議において、生徒の情報交換を月一回、学年会議などでも情報交換が習慣化している。授業担当とさらにきめ細やかな情報交換を充実させ、組織的な指導に取り組む。
		②教育相談体制やスクールカウンセラーの活用等に、生徒の70%が満足している。		B	B	「相談だより」やWebページでスクールカウンセラーの活用について周知し、積極的な活用を推進する。アンケートや面談等の結果を教育相談・カウンセリングに活かせるようにする。	B	B	生徒への声掛けや面談を通してスクールカウンセラーとのカウンセリングを働きかける。また、今後も相談しやすい環境づくりを心がけ、生徒に「見える」相談体制を構築する。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①1日の平均遅刻率が0.8%以下である。	保護者との連携を強化して、生活習慣の向上を目指す。また、段階的な遅刻防止指導を継続して行い、組織的な指導により改善に努める。	B	—	生徒や保護者との面談を通して、遅刻や欠席の原因を究明する。保護者との連携を強化し、家庭での生活習慣の改善と学校での意欲的な取り組みにつながる環境作りを引き続き行い、遅刻や欠席の減少に努める。	C	—	保護者との連携を強化し、協働体制を構築する。進路を強く意識させることで、将来的な欠席・遅刻防止の意義を理解させる。また、個々の遅刻・欠席の原因を把握して、適切な指導を丁寧に行い、改善に努める。長期欠席者に対しては、教育相談係やスクールカウンセラーを活用した生徒理解と原因究明に取り組み、専門機関等とも連携し、減少を図る。
6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①いじめの未然防止に努め、早期発見・早期対応に努めていると評価する生徒が70%以上である。	生徒・保護者・職員にいじめ防止基本方針を周知し、いじめを絶対に許さない雰囲気を学校全体に広める。いじめ防止フォーラムの運営を行い、内容を生徒に還元する。日常的なきめ細かい生徒観察に努め、少しでも気になることがあれば早期に対応する。	A	A	いじめ防止活動として生徒主体の活動を実践する。生活アンケートの結果を踏まえ、面談週間を通して生徒個々の状況を把握し、適切な対応を速やかに行う。	A	A	今まで以上にいじめを絶対に許さないという雰囲気を学校全体に広げ、職員が未然防止・早期の組織的対応に努める。特にSNSの使用方法については、専門機関などと連携した指導を実践する。また、生徒及び保護者にいじめ防止対策について情報発信する。	
		②欠席率が2.3%以下である。	欠席者に対してきめ細やかに個々の対応を行い、原因究明から対策を考え、減少を図る。教務や進路指導・生徒クラブと連携して、欠席減少の意義を理解させる。	A	—		C	—	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	①学校から提供される進路情報や進路関係行事等が進路を考えるうえで役立っていると評価する生徒が70%以上である。	最新情報の収集・提供、個々の生徒の状況に応じた進路相談、キャリア教育の視点に立った各学年の進路ガイダンスを充実させる。 3年間を見通した段階的な進路指導を実践する。	A	A	進路ガイダンスの内容および事前・事後指導について検討し、生徒や保護者が求める情報を提供することにより具体的な進路を考えさせる。	A	A	生徒が具体的な進路について考え、進路実現に向けて主体的に取り組めるよう、進路行事の事前・事後指導や進路学習などの内容についてキャリア教育の視点からさらに検討する。
		②LHR等で10時間以上進路学習を行っている。		A	—	進路学習の効果を検証し、学年と進路指導部の連携した進路学習の内容の充実を図る。	A	—	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	①自己の生き方と将来の職業の関連について考えている生徒が70%以上である。	自己の在り方・生き方をイメージさせる進路指導を充実させる。	C	B	適性検査や基礎力診断テストの結果等の効果的な活用に努め、生徒の自己理解を深める。	B	A	適性検査や基礎力診断テスト等の結果を効果的に活用するために、結果の見方等の研修会を実施し、進路指導の充実を図る。
②目標とした進路を実現できた生徒(3年生)が90%以上である。	生徒理解に努め、個々の生徒の適性や家庭状況に即した進路指導を行う。	—	—	—	—	—	—	教務部と連携し、キャリア教育の研修を実施し、学校全体で組織的にキャリアカウンセリングできる体制を構築する。	
		①PTA総会、学年保護者会等に参加している保護者が、60%以上である。	公開授業や学年保護者会等を充実させるため、本部役員と連携して、参加への理解を深める。マスメディアやWebページを有効に活用し、PR活動を積極的にすすめる。また、連絡メールを適切に活用して、学校行事等への参加を促す。	B	—	本校の教育活動に関心が持てるような企画をPTA係や本部役員と検討し、参加率向上に努める。	B	B	PTA役員、学年委員と連携を図り、保護者の参加が増加するよう工夫する。
②「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%以上である。	A	A		学校行事等の様子をWebページに適宜掲載し、生徒の様子や活躍をより情報発信できるように工夫する。	A	A	今後もWebページ、連絡メール、マスメディア等を積極的に活用し、学校の様子を継続的に情報発信する。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①PTA総会、学年保護者会等に参加している保護者が、60%以上である。	公開授業や学年保護者会等を充実させるため、本部役員と連携して、参加への理解を深める。マスメディアやWebページを有効に活用し、PR活動を積極的にすすめる。また、連絡メールを適切に活用して、学校行事等への参加を促す。	B	—	本校の教育活動に関心が持てるような企画をPTA係や本部役員と検討し、参加率向上に努める。	B	B	PTA役員、学年委員と連携を図り、保護者の参加が増加するよう工夫する。
②「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%以上である。	—	—	—	A	A	学校行事等の様子をWebページに適宜掲載し、生徒の様子や活躍をより情報発信できるように工夫する。	A	A	今後もWebページ、連絡メール、マスメディア等を積極的に活用し、学校の様子を継続的に情報発信する。